

個人投資家向け説明会

2024 年

日産車体株式会社

会社紹介

日産車体は、ここ神奈川県平塚市に本社、
湘南工場、テクノセンターがあり秦野市には秦野事業所、
そして福岡県には日産車体九州があります。
それでは、この4つの拠点の特徴をご紹介します。

本社、湘南工場ではNV200バネット、
小型トラックのピックアップなどを生産。

テクノセンターでは新型車の開発や試作モデルの制作。
秦野事業所にはボディパーツを作るプレス工場と、
テストコースをはじめとする実験設備。

そして、日産車体九州では、
ミニバン エルグランドや輸出用のパトロールなどを生産。

日産車体で生産されたクルマは、
日本国内はもちろん、海外でも高い評価をいただいています。

日産車体で生産されたクルマは、国内に出荷されるだけでなく、
世界各国へも輸出されています。
高品質なクルマを、世界中のお客様へ。

2023年度事業報告の内容

【1. ご挨拶】

それでは、目的事項であります、報告事項1、第101期、すなわち、2023年4月1
日から、2024年3月31日までの、事業報告の内容、連結計算書類の内容、続いて、報
告事項2、第101期計算書類の内容につきまして、ご報告を申し上げます。

【2. 企業集団の現況】

まず、企業集団の現況に関する事項のうち、事業の経過、及び、その成果につきまして、
ご説明を申し上げます。

当連結会計年度のわが国経済は、雇用情勢や所得環境の改善から緩やかな景気の回復が

見られた一方、物価上昇や中東地域をめぐる情勢等の影響に十分注意が必要な状況が続きました。

当社グループを取り巻く環境は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う経済活動の抑制や、一部の部品供給問題の影響等を受けた前連結会計年度と比べ生産活動は回復したものの、2024年1月に発生した能登半島地震の影響による構成部品の供給不足や、需要の変動など厳しい状況となりました。

【売上高】

このような環境において、当社が、日産自動車株式会社から受注しております自動車の売上台数は、前連結会計年度と比べ2.0%減少の13万9千121台となりました。売上高は、主に「NV200バネット」等の商用車の売上が伸びたものの、「アルマーダ」等の乗用車の売上台数が減少した結果、2.1%減少の3千010億円となりました。

【損益】

次に、損益面でございますが、営業利益は売上台数の減少や車種構成の悪化、市況変動の影響等により77.7%減少の9億円、経常利益は72.8%減少の13億円となりました。

また、親会社株主に帰属する、当期純利益は、89.5%減少の4億円となりました。

【資金調達】

次に、当連結会計年度は、特記すべき資金調達は実施しておりません。

【設備投資】

続きまして、当連結会計年度の、設備投資の状況につきまして、ご報告致します。

当連結会計年度の設備投資の総額は約371億円で、新商品、マイナーチェンジによる商品力強化と、生産設備の合理化、厚生施設の改善、職場環境改善など、諸設備の充実強化に努めました。

【連結計算書類】

【連結貸借対照表】

次に、連結計算書類でございますが、まず、2024年3月31日現在の、連結貸借対照表の、概要につきまして、ご説明を申し上げます。

資産の部合計は、2千583億円となりました。

その内訳は、流動資産が、1千400億円、固定資産が、1千183億円で、前期末に比べ92億円の増加となりました。

一方、負債の部合計は、840億円となりました。

その内訳は、流動負債が、683億円、固定負債が、156億円で、前期末に比べ、79億円の増加となりました。

また、純資産の部合計は、1千743億円となりました。

その内訳は、株主資本が1千680億円、その他の包括利益累計額が62億円で、前期末に比べ、14億円の増加となりました。

【連結損益計算書】

次に、第101期の、連結損益計算書の、概要につきまして、ご説明を申し上げます。

先ほど申し上げました、当社と、連結子会社各社の事業活動の結果、当期の経常利益は、13億円となりました。

また、特別利益は、固定資産売却益1.4億円を計上し、この結果、法人税等を差し引いた、親会社株主に帰属する、当期純利益は、4億円となりました。

【3. 対処すべき課題】

続きまして、「対処すべき課題」のご報告をさせていただきます。

【新中計スタート】

当社は、「気候変動への対応の必要性」、「市場のニーズの変化」、「企業に求められる社会的責任の高まり」、「労働人口、従業員の意識の変化」、これらの環境変化を認識し、昨年度2023-2027中期経営計画をスタート致しました。

【日産車体の目指す姿】

これらの環境変化を踏まえ、目指す姿を「商用車とプレミアムカー、特装車、サポート事業で社会に貢献し、お客さまから頼られる唯一無二の存在となる」と定め、これら3つの主要事業の拡大を図ってまいります。

【2023-2027 中計基本方針】

昨年策定致しました、2023-2027中期経営計画では、「持続可能な企業基盤」、「魅力ある商品の創出」、「独自性の進化と深化」の3つを重点課題として取り組んでおります。それでは、3つの柱ごとに説明してまいります。

【持続可能な企業基盤】

まず1つ目の柱、「持続可能な企業基盤」でございます。

本中期経営計画では、活動の柱の中心に「持続可能な企業基盤」を掲げ、ESGすなわち「環境」、「社会」、「ガバナンス」の課題に取り組み、サステナビリティを中心に据えた事業活動を推進しております。

2050年カーボンニュートラル達成に向けた取り組みでは、台当りCO2排出量を2030年までに52%削減することを目標として設定しております。省エネ活動としては、

電力監視モニターによる使用電力の可視化を進め、データ分析の結果をもとに具体的な対策を進めてまいります。

照明については、2025年度までに全照明のLED化を計画しており、2023年度末で計画通り全体の50%を終了致しました。そして、再生可能エネルギーの導入として、昨年度は太陽光を利用した外灯を設置致しました。また、今後はソーラーパネル設置についても具体的な検討を進めてまいります。

次に、DE&Iすなわち、ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの取り組みでございます。

昨年度は役員・従業員がその意味をしっかりと理解し、企業風土の醸成にむけた再スタートの年と位置付け、そのための研修などを進めてまいりました。今年度はアンコンシャスバイアスについての理解を深める活動等を追加致します。

また女性活躍を推進している企業が取得できる「えるぼし」の認定に向けては、昨年度は1段階目の認定条件をクリア致しました。今年度は1段階目を申請すると共に、さらに上位の認定に取り組んでまいります。

地域・社会への貢献では、1月に発生致しました能登半島地震の支援として、当社から2台のキャラバンを被災地に提供致しました。

1台はワイドハイルーフ仕様で、車内の広さを利用し被災者の車中泊などにご活用いただき、もう1台は10人乗りワゴンで、被災されたサプライヤー様で従業員の送迎にご活用いただきました。

同じく地域・社会への貢献活動では、コロナ禍でスタートしたオンラインでの工場見学に加え、来場型を4年ぶりに再開致しました。

また災害時の対応として、近隣自治会との防災訓練を実施致しました。大津波警報発令時には、ここ2地区本館屋上が近隣住民の緊急一時避難場所としてご活用いただきます。

企業祭についても湘南地区で「遊人びあ」、九州では「新浜祭（にいはまさい）」を4年ぶりに実施致しました。これら新型コロナで中止していた様々な活動を再開し、地域社会との共生を図ってまいります。

【魅力ある商品の創出】

次に2つ目の柱である、「魅力ある商品の創出」でございます。

まず日産車体九州にて4月に量産を開始致しました、北米向け新型 INFINITI QX80についてでございます。フルモデルチェンジにあたり、最新の運転支援技術や新開発のフレームやエアサスペンションに加え、フード部分が透過して前方を確認できる、Invisible Hood View（インビジブル フードビュー）や、電動でドアハンドルが格納される「Flush Door Handle（フラッシュ ドアハンドル）」など世界初やセグメント初となる技術を数多く採用し、圧倒的な商品力で北米市場に投入いたします。

今年度は、中近東向けの新型フレーム車など、派生車も含めて、順次量産を開始していく

予定でございます。万全の生産準備で進めてまいりますので、是非ともご期待いただきたいと存じます。

続いて現行モデルのイベント関係でございますが、昨年生誕50周年を迎えたキャラバンでは専用のブラックグリルや本モデル専用色を採用した特別仕様車を発売致しました。

またADで最新法規への対応と安全装備を充実させたマイナーチェンジを実施したのをはじめ、各車で各種法規に適合させるとともに商品力向上のためのマイナーチェンジを実施致しました。

特装車では、オートワークス京都が架装を担当する「キャラバンMYROOM」を発売致しました。簡単操作で、ドライブモードからベッド、ソファەرに変わるシートの採用をはじめ、特別装備のロールスクリーンでシアタールームとして利用できるなど、車中泊ニーズに応えたモデルと致しました。

パラメディックは、入札参加率の向上や販売会社勉強会など販売支援策の強化などの効果で、過去最高となる200台の受注を獲得致しました。今後は、オートワークス京都独自の商流で販売する領域でも商品を充実させ、事業の拡大を図ってまいります。

続いて、当社生産車の品質でございます。2023年度 日産圏国内市場での初期品質評価におきまして、当社のNV200(にいまるまる)バネットがランキング1位、キャラバンがランキング2位を獲得致しました。前中期経営計画期間から引き続き、当社の製品はトップレベルを維持し続けております。

【独自性の進化と深化】

「独自性の進化と深化」でございます。

技術開発については、昨年度は新型フレーム車への量産適用技術など、9件が開発完了致しました。今年度以降も引き続き、効率的なサービス部品の生産を実現する技術や今後のCASEを見据えた新たなアイテムの積み上げに取り組んでまいります。

次に、日産圏の基本技能競技大会での活躍でございます。昨年度も日産自動車追浜工場など各地で行われ、「車両組立基本技能競技大会」で、全階級でメダルを獲得するなど、日産車体グループ従業員が好成績を収めました。安定した生産や品質の更なる向上に向けた、日頃の鍛錬の結果として頼もしく感じております。

これらの現場力を支える教育の充実を図るため、昨年度、「日産車体 教育センター」を開設致しました。新規社員の教育や、高技能者の育成及び多能工化の推進などの社内教育や、安全な職場づくりのための体感訓練を実施しています。社内教育だけでなく、日産圏の基本技能競技大会や車体工業会をはじめとした外部団体の研修にもご利用いただいております。

「対処すべき課題」についてのご説明は以上になります。

2023-2027中期経営計画の2年目に当たり、ここに示した「Nissha-ism」を日産車体で働くものの共通の価値観として、引き続き当社の強みである開発から生産まで一貫

したモノづくり体制の強化と、法令遵守やコーポレートガバナンス向上に取り組んでいくことで、ステークホルダーの皆様からの信頼を高められるよう、努めてまいります。

【４．２０２４年度の業績見込み】

ここで、２０２４年度の、当社の業績見込みにつきまして、ご説明をさせていただきます。

まず、当社の売上高は、３千２８７億円を見込んでおります。また、営業利益、経常利益は、それぞれ、８７億円、９０億円を見込んでおり、親会社株主に帰属する、当期純利益は、５４億円を、見込んでおります。

以上が、２０２４年度の業績見込みでございます。

【５．配当について】

なお、配当につきましては、安定した配当を継続的に行う、という配当方針に基づき、当事業年度の年間配当金は、１３円となります。

また、２０２４年度につきましても、同様に、年間１３円を継続する予定でございます。

【６．閉会の挨拶】

皆様におかれましては、従来にも増した、ご支援、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。